

1. 原稿の言語 日本語または英語のいずれかとする。
2. 原稿の種類 原稿は「表紙」と「論文」の2種類を作成する。

「表紙」の1頁目には、論題、氏名、所属、要旨、キーワード（5項目以内）、投稿者連絡先（連絡先住所・電話番号・ファックス番号・電子メールアドレス）を、「表紙」2頁目には、英文論題、英文氏名、英文所属、英文要旨、キーワード（5項目以内）をこの順で記載すること。共同論文の場合は、代表者の連絡先を記すこと。

「論文」には、論題、要旨、キーワード、本文（図・表を含む）、注、参考文献を含めることとする。必要な場合には、補遺を含めることができる。ただし、謝辞は記載しないこと。また「論文」では、執筆者が特定できるような表現を避けるよう十分配慮すること。

3. 原稿の書式と頁数

- (1) 応募原稿は、ワープロ(Microsoft Wordが望ましい)による横書きで、A4版用紙に1頁41文字×33行=1.353文字を基準とする。原稿の刷り上がり頁数は、原則として、「表紙」は2頁、「論文」は11頁を上限とする。ただし機関誌編集委員会が妥当と認めた場合には、制限頁数を超えることができる。
- (2) 原則として原稿の印字ポイントは下記のとおりとする。英文についてはTimes New Romanフォントによる英字入力とする。

〈本文(要旨・注・参考文献を含む)〉

区分	サイズ/フォント	配置等
主題(タイトル)	14ポイント/明朝	センタリング
副題(サブタイトル)	10ポイント/明朝	センタリングし、前後一で囲む
執筆者	10ポイント/明朝	右寄せ
所属	9ポイント/明朝	右寄せ
要旨・キーワード	8ポイント/明朝	左寄せ
本文	9ポイント/明朝	左寄せ
節	10ポイント/ゴシック	センタリング
項(節内の小見出し)	9ポイント/ゴシック	左寄せ
参考文献	8ポイント/明朝	左寄せ
注	7ポイント/明朝	左寄せ

*節・項の区切りの部分ではI行スペースを入れること。

24. 基本構成 節・項は、下記のように付番する(ローマ数字の使用や、数字のない筋

立ては避ける)。

(例) 4 —

4.1 —

4.1.1 —

4.1.1.1 —

5. 文章表記

(1)横書き，新かなづかい，当用漢字，新字体使用を原別とする。

(2)本文の句読点は，原則として，句点(。)と読点(，)を使用する。

(3)和文の引用には「」を使用する。

6. (1) 注記は内容に関する注のみとし，引用箇所の表示は本文注の著者名，発表年と頁を

丸カッコ()で囲んで入れる。複数ある場合は， ;で区切る。

(例) 「・・・」という見解もある(佐藤 1997, 36)。

・・・と解釈されている(鈴木 2000, 54-58; 田中 2001, 127)。

秋元(2000, 163-167)によると，・・・

(2) 注番号は右肩に記入する。

(例) ・・・である¹。

(3) 注記は，注番号の付された頁の下部に脚注として記載する。

(4) 原典からの引用が望ましいが，やむを得ず訳書から引用する場合は，原著者名，原著発表年，邦訳頁を丸カッコに囲んで入れる。

(例) ・・・が指摘されている (Lev 1991, 邦訳28)。

7. 図・表の作成

(1) 図・表は，それぞれ上部に通し番号とタイトルを付けて本文中にそのまま入力・配置する。

(例) 図1. タイトル表 表1. タイトル

(2) 引用した場合は，その出所を図表の下に明記する。

8. 参考文献・参考URL

参考文献・参考URLは，原則として以下の表記に従うこと。

- (1) 参考文献(通常の出版物, 雑誌論文)の一覧は, 論文の最後に, 和文献(著者氏名の五十音順), 洋文献(ファミリーネームのアルファベット順)の順に記載する(注を使った文献表示は避ける。ただし統計報告書・新聞・政府文書等この限りではない)。
- (2) 書物名・雑誌名は, 和文の場合は, 『 』, 欧文ではイタリックとする。
- (3) 論文名は, 和文の場合は「 」で囲む。
- (4) 文献は次の順序で表記する。詳細は下記の例示を参照すること。

単行本: 著書(编者)名, 発行年, 書物名(副題とも)・版, 発行所。

論文: 著者名, 発行年, 論文名, 収録書物の著者(编者)名, 集録書物名(または雑誌名), 巻数, 号数, 頁数。

(例)

上總康行. 1993. 『管理会計論』新世社.

上總康行. 2003a. 「管理会計実務の日本の特徴—銀行借入と投資経済計算を中心に—」『経理研究所紀要』(東北学院大学)11: 1 - 22.

上總康行. 2003b. 「資本コストを考慮した回収期間法—割引回収期間法と割増回収期間法—」『管理会計学』12(1): 41 - 52.

上總康行・澤邊紀生. 2006. 「次世代管理会計のフレームワーク」上總康行・澤邊紀生編著. 『次世代管理会計の構想』中央経済社: 1 - 37.

Anthony, R. N. and V. Govindarajan. 2001. *Management Control Systems*. 10th ed., New York: McGraw-Hill.

Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 1996. *The Balanced Scorecard: Translating Strategy into Action*. Boston, Massachusetts: Harvard Business School Press. (吉川武男訳. 1997. 『バランス・スコアカード—新しい経営指標による企業変革—』生産性出版)

Lowe, T. and T. Puxty. 1989. The Problems of a Paradigm: A Critique of the Prevailing Orthodoxy in Management Control. W. F. Chua, T. Lowe and T. Puxty (eds.). *Critical Perspectives in Management Control*. London: Macmillan: 9 - 26.

Simons, R. 1990. The Role of Management Control Systems in Creating Competitive Advantage: New Perspectives. *Accounting, Organizations and Society* 15(1/2): 127 - 143.

- (5) 参考URLは, 参考文献に続けて, アルファベット順のリストの形で記載する

なお, 記述スタイルの統一を図るため, 文書, かなづかいなどについて, 編集委員が修正することがある。